

市職員の女性管理職登用と働き方改革について

日本のジェンダーギャップ(男女の違いにより生じる様々な格差)は、146か国の中で118番目、G7(先進7か国=アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・日本・カナダ・イタリアのこと)の中では最下位という報道がなされました。

館山市の階級別の職員数では、3級と4級は女性のほうが多いのですが、5級と6級は34%、7級は2人だけで5.9%、8級はゼロです。

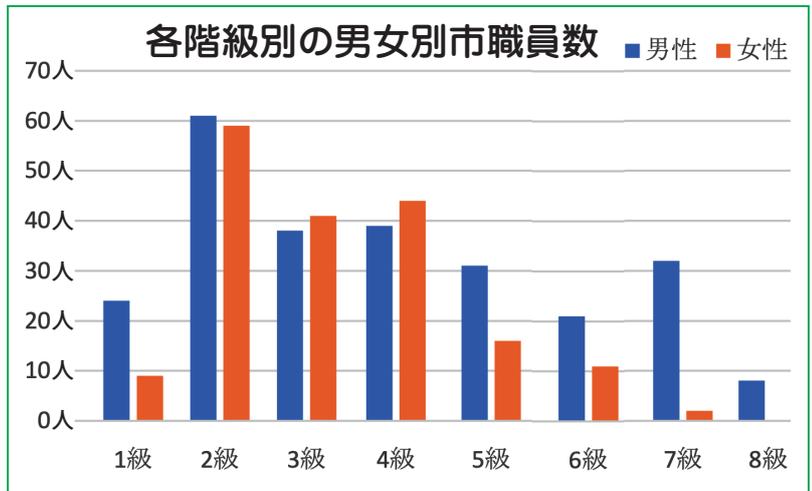
課長級以上の女性管理職が少ないのは、以前は女性の採用が少なかったためとされていますが、管理職候補は男性、女性はアシスタント的な仕事という考え方もあったのではないのでしょうか。

現在は、男女の区別なく個々の能力を評価したうえで管理職登用を行い、係長等監督職の女性割合が増えてきているので、女性管理職も増えると期待できます。

一方、男女を問わず若い職員の中には、管理職になることを希望しない職員も増えています。残業時

間を減らし、働きやすい環境にしていけないと、管理職だけでなく、市職員の採用にも影響してきます。

より良い人材を確保するためにも、時間内で仕事を終わらせることが当たり前の職場環境づくりが必要です。



フェアトレードタウンについて

イギリスのガースタングという小さな町が2000年に名乗りを上げたことで始まった「フェアトレードタウン」は、20年ちょっとで2200以上に増えました。日本では熊本市を皮切りに、すでに名古屋市、逗子市、浜松市、札幌市、いなべ市の6市がフェアトレードタウンに認証されています。このほかに、いくつかの自治体が検討中と聞いています。

館山フェアトレードタウン推進委員会の熱心な活動でフェアトレードタウンになるための基準の多くをすでに満たしています。

市としては、まだ市民の中にフェアトレードの考えが浸透していないとして、市民に広めていく努力をしていく考えです。



国際フェアトレード認証ラベル

フェアトレードタウンとは

フェアトレードタウンとは、「まちぐるみ」、行政、企業、商店、市民団体などが一体となってフェアトレードの輪を広げようという取り組みです。

フェアトレードとは、発展途上国で生産されるものを正当な条件で取引することにより、発展途上国の貧困、児童労働、環境破壊など問題を解決しようという貿易の仕組みです。活動を通して、地産地消、良い物を大切に使うこと、環境にやさしい消費活動を広めていきます。

マイナ保険証について



(保険証に紐づいたマイナンバーカード)

令和6年7月31日に発行されるもので、紙の国民健康保険証は最後になります。

マイナ保険証を持っていない方には令和6年12月から資格確認書が交付され、これまでの健康保険証と同様に利用できます。マイナ保険証を持っている方には資格情報のお知らせが届きます。

主な補正予算

【館山中学校整備事業】…4億8092万3千円

【低所得者支援及び定額減税を補足する給付重点支援地方交付金費

(住民税非課税世帯給付金、住民税均等割のみ課税世帯給付金、こども加算、調整給付)】…4億4191万7千円

【公私連携幼保連携型認定こども園施設整備事業】…1億2741万3千円

【予防接種費(新型コロナウイルスワクチン接種公費負担対象者)】…1億611万5千円

おわりに

小中学校の再編計画の各地区での説明会が行われました。来春には、館山中学校が元の第三中学校跡地に建設中の新校舎に移ります。

子どもが少なくなってきた、クラス替えができる学校規模を望む保護者が多かった一方、少人数できめ細やかな教育を希望する声もあったことから、小規模特認校の設置も検討されています。



子どもたちをどう育てたいか、どんな教育を望むか、子ども自身はどうしたいかなど、各家庭でそれぞれ真剣に考えたうえで学校を選択することになります。都会にはない、自然の中の子育てを希望して、移住してきている人たちも少なからずいます。

次の時代を担う子どもたちをどう育てていこうか、みんな考えていきましょう。

